

自主的環境保全活動の取り組み状況

(事業所名) 株式会社 カネカ 高砂工業所

1 環境保全活動に関する方針等

1-1 環境保全活動に関する方針

高砂工業所 環境方針

株式会社カネカは「人と、技術の創造的融合により、未来を切り拓く価値を共創し、地球環境とゆたかな暮らしに貢献します」を企業理念としています。

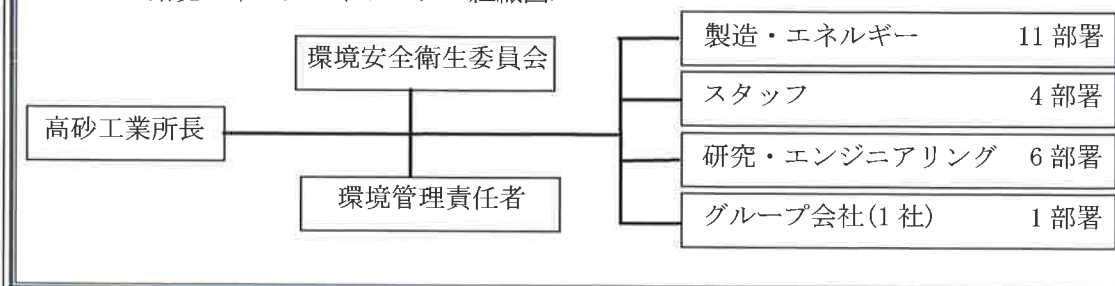
また、ESG 憲章の中で「価値あるソリューションをグローバルに提供することを通じて世界の人々の人生と環境の進化に貢献する」と定めています。

高砂工業所は、これらの企業理念、ESG 憲章に基づき、その立地が、瀬戸内海国立公園播磨灘に面し、かつ、住宅地域に隣接していることを認識し、豊かで、美しく、住みやすい環境を目指し、環境保全活動を積極的に推進します。

- (1) 環境に配慮し、安心して使用できる製品の提供と製品開発から調達・生産・廃棄に至るすべての過程において環境影響を評価すると共に、社会的要請や地球環境を保護するために、環境負荷低減を行います。
- (2) 地球環境の保全や環境に関する法令、及び、環境保全協定等の組織が合意するその他の要求事項を遵守すると共に、自主的な基準を設定し、順守に努めます。
- (3) 環境目的・目標は定期的に見直しを行い、環境パフォーマンスの向上及び環境マネジメントシステムの継続的改善に努めます。
- (4) 環境方針は、当工業所及び関係会社・協力会社の全社員に教育、掲示等を実施し周知徹底します。
- (5) この環境方針は、すべてのステークホルダーに積極的に開示、提供します。

1-2 環境保全活動に関する組織体制

〈環境マネジメントシステム組織図〉



2 環境保全活動の実施状況等

項 目	取組結果		今後の取組計画
化学物質対策	・大気重点6物質の排出量低減 ①塩化ビニルモノマー ②1,2-ジクロロエタン ③クロホルム ④アクリロトリル ⑤1,3-ブタジエン ⑥塩化メチレン	・大気重点6物質の合計排出量は、前年度17.1 t に対し13.6 t と減少した。 ・PRTR物質の総排出量は、前年度74.6 t に対し123.4 t と増加した。これは、法改正に伴う対象物質の拡大によるものである。	・大気重点6物質の排出量削減取組の継続
温室効果ガス削減対策	・エネルギー原単位の低減 ・フロン漏洩量削減	・省エネ活動の推進とエネルギー管理の徹底を図った事で、エネルギー原単位は平成25年度比90.7%となった。 ・CO2換算フロン漏洩量は、経年化フロン機器の計画的な更新により、前年度306 t に対し269 t と減少した。	・エネルギー原単位低減活動の推進 ・経年化フロン機器の計画的な更新を推進
廃棄物対策	・最終埋立処分量0.1%未満対発生量	・最終埋立処分量は13.3 t（埋立処分比は0.02%対発生量）となり、ゼロエミッションを達成した。	・最終埋立処分量比 0.1%未満対発生量の継続
環境マネジメントシステム	・ESG安全・品質査察 ・環境安全内部監査 ・第三者機関による審査	・1月に本社が企画運営する環境・安全・品質の総合査察を受け、継続的改善に取り組んだ。 ・OSHMSと統合した環境安全内部監査を7～9月に全23部署で実施し、システムが適正に機能していることを確認した。 ・10月に日本化学キューエイ㈱の維持審査を受け、システムが適正に機能していることが確認された。	・ESG安全・品質査察（総合） ・環境安全内部監査 ・第三者機関による審査
環境教育	・EMS教育 ・防災訓練	・ISO14001の要求内容に沿って計画的に教育・訓練を行った。 ・12月に地震、漏洩を想定した総合防災訓練を実施した。	・EMS教育 ・防災訓練
地域社会との共生	・さつま芋の収穫イベント ・地域対話 ・環境情報の公開	・社有地にさつま芋を育て、近隣の保育園、幼稚園、小学校の子供達や養護学校生を招き、秋の収穫を体験して頂いた。 ・対面での地域対話を11月に開催した。事前アンケートも28軒から回答があり、貴重なご意見、要望を承った。 ・サイトレポートである環境・社会報告書を、近隣自治会長宅24軒へ配布した。	・地域対話の継続